

中央環境審議会自然環境部会温泉小委員会（第5回）議事要旨（案）

1. 日 時 平成 18 年 12 月 19 日（火）10:00～12:16

2. 場 所 環境省第 1 会議室（中央合同庁舎第 5 号館）

3. 出席者

（委員長） 熊谷 洋一

（委員） 石川 理夫 板寺 一洋 大野 英市
岡部 昭典 川名 英子 甘露寺泰雄
小原 健史 佐藤 友美子 田中 正
津上 俊治 中村 昭 原田 純孝
森戸 哲

4. 議 事

（1）温泉資源の保護対策及び温泉の成分に係る情報提供の在り方等について

- ・事務局より、資料に基づき温泉小委員会における当面の検討事項の整理について説明し、これについて委員会として了承を得られた。
- ・引き続き、事務局より、資料に基づき温泉成分等の情報提供の在り方、温泉資源保護対策の在り方及び魅力ある温泉地づくりについて順次説明。

《以下、各委員より出された意見の概要》

（温泉成分等の情報提供）

- ・温泉成分の10年毎の再分析について、業界を代表する者としては基本的に賛成。
- ・定期的な再分析は、源泉の健康状態というものを知る上で極めて有益。
- ・登録分析機関の分析処理能力等から、10年を超える分析結果を掲示してはならないということが決定した場合、2年程度の経過措置が必要ではないか。

（温泉資源保護対策）

- ・国がガイドラインを示すというのは良い考え。
- ・国が示すガイドラインや都道府県が策定することとなる温泉資源保護に関する要綱等の位置付けについては慎重に検討することが必要。
- ・ガイドラインの策定に当たっては、特定の地域を定めるやり方と個別の影響調査との関係をどのように整理するかが課題。
- ・継続的なモニタリングというものが資源保護のためには非常に重要。

- ・源泉所有者の個人情報との関係など、科学的な情報の収集方法というものを今後よく検討する必要。

(魅力ある温泉地づくり)

- ・温泉地を守っていく市民の役割、地域住民が温泉地を支えていくといった視点が重要。
- ・観光立国の推進の観点から各府省の連携が必要。
- ・温泉文化、健康づくりという視点が必要。

(2) その他

- ・次回委員会では、温泉小委員会報告書の素案について議論することとなった。